

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ I
	学部・研究科等名	全学部全学科
	担当教職員名・役職	西岡慎介 キャリア支援課長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	86
	受入企業等数	116
	受入企業等名	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/job_qualifications/career/internship/receiver.html
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	通常業務への従事や営業同行をさせていただいたり、また企業等より課題が出され、その解決策等についてプレゼンテーションを行うなど、受け入れ先の企業により就業体験の内容はさまざまである。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次生～4年次生
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	共通学芸科目(キャリア教育科目)として設置。通年2単位の選択科目として開講している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	2日間実施。初日は「目標及び課題設定方法」についての講義を聴講。のちにビジネスマナー講座を受講。2日目は実習先の組織研究を行った後、「目標及び課題設定」について、実習生同士のグループディスカッションで意見交換を行い、実習の目的意識・学習目標を確立させている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	グループディスカッションで実習体験から学んだことを報告し合うことにより、今後の大学生活における課題や目標を明確にする。また、事前指導で設定した目標及び課題について検証を行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	キャリア支援委員である教員(11名・各学科から1名選出)とキャリア支援部職員(9名)が分担し、なるべく学生の実習期間中に訪問し、実習の様子等について学生及び企業側担当者と面談を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習終了後、A4・1枚 1200字程度のレポートを作成させている。また、実習報告書として「実習内容の概要」「自己評価」「自己達成目標」「目標に対する成果」「反省点」等を提出させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している,2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各企業等には原則8日以上、1日の平均実習時間が6時間以上で受入れをお願いしているが、実習日数については5日以上であれば可としている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習受け入れ先の担当者様に日々の実習日誌への講評をお願いしている。また、実習終了後には「実習成績報告書」への記載をお願いしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/job_qualifications/career/internship/index.html
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	キャリア支援部・キャリア支援課
	担当者役職名	キャリア支援課長
	担当者氏名	西岡 慎介
	電話番号	0774-65-8415
	メールアドレス	career-t@dwc.doshisha.ac.jp